

Duet

コンテンポラリー
ダンス公演

二人を踊る

監修
セレノグラフィカ



出演

下村 唯
西岡 樹里
* 升田 学
エメ スズキ

照明
プラン

岩村 原太
アーツスタッフアカデミー
4期生

©Shinichiro Saigo

2018年2月18日(日) 14:00開演(13:30開場)

サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)大スタジオ

料金/500円(全席自由・税込) ※中学生以下無料 ※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

チケット発売/2018年1月27日(土)10:00~ プレイガイド/サントミュージゼ Web&窓口(要会員登録・無料)

主催:上田市(上田市交流文化芸術センター)/上田市教育委員会

助成:(一財)地域創造 /  平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業


サントミュージゼ
LEGA SANTOMYUZE
<https://www.santomyuze.com/>

なぜダンスは
男女がペアで踊ることを許したのだろう

なぜ身体は
別の身体のそばにいることに興味を持つのだろう

なぜ人は
デュエットを見ると
愉悦や困惑や、清々しさや後ろめたさや
そんないろいろを感じるのだろう

重ねて来た時間の異なる二組の男と女による、
さまよいと、さまよいの果て

二人であることそのものを踊る、Duet ——

とある人生の物語を彷彿とさせる「エテルノ」、ショートフィルムを観るかのような世界観の「鱧と脚の狂騒曲」。「4人の人生」の「二つの物語」は観ているうちに、自らの人生と優しく重なり合います。ダンスカンパニー・セレノグラフィカのダンス作品を4人のダンサーたちが二組のデュオで表現。「エテルノ」と「鱧と脚の狂騒曲」の新しい世界観——美しく儂く、そして温かい「Duet」をお楽しみください。

©Shinichiro Saigo

「エテルノ」

初演:2016年5月 サントミュージゼ大ホール

セレノグラフィカ結成20周年記念作。結成以来、デュエットを創作の基軸にしてきたダンスカンパニーの現在地が凝縮している。恒久性、永遠性をテーマに、淡々と連なる時間を踊る。

エメズズキ

升田 学



「鱧と脚の狂騒曲」

初演:2012年12月 京都芸術センター

セレノグラフィカ結成15周年記念作。初演時はトリオ版上演、今回はデュエット版での上演となる。心に潜む遊びの記憶やどこかに迷い込む感覚をつづるメドレーのパートは迷路感そのもの。

下村 唯

西岡 樹里



Selenographica (セレノグラフィカ/ダンスカンパニー)

隅地 茉歩 / 阿比留 修一

関西を拠点に幅広く活動を展開する結成20年のダンスカンパニー。多様な解釈を誘発する不思議で愉快的な作風と、緻密な身体操作から繰り出されるダンスで多くの観客を魅了している。2005年に隅地がTOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD「次代を担う振付家賞(グランプリ)」を受賞後、ヨーロッパ、韓国、オーストラリアなど国外でも作品を発表。近年は公演・WS・セミナーなど、全国各地に「身体と心に届くダンス」を伝える日々を送る。350を超える教育機関へのアウトリーチも行い、あびちゃん・まほさんとして人気。2015年~2016年度サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)レジデントカンパニー。
<http://selenographica.net/>



©Ai Hirano

岩村 原太

(いわむら・げんた/照明プランナー)

1980年代後半にライティング・ワークの試みを始め、以降、劇場/舞台をフィールドとした活動を続ける。舞踊家とのコラボレーションを主に、演劇や音楽領域のセッションにも参加。専門は照明美術デザイン。大学教授(劇場照明、舞台美術)。



振付・構成・演出:隅地 茉歩

照明プラン:岩村 原太、アーツスタッフアカデミー4期生*

舞台技術:上田市交流文化芸術センター舞台スタッフ

アーツスタッフアカデミー

サントミュージゼが開催する、「地域とアートをつなぐ、スタッフ育成」のための講座。4回目を迎えた今年度は、一般参加者がプロの照明プランナーやダンサーと一緒に、本公演の照明プランを立てました。